

## フィロミナ・ミリア(PNG)

パプアニューギニア (PNG) は、南緯 0~14 度、東経 141~160 度の太平洋に位置します。PNG 本土は、インドネシア東部のイリアンジャヤで同国と国境を接しています。また地質構造上、環太平洋火山帯として世界的に最も地理上地震活動が活発な地域のひとつに分類されています。



歴史的に PNG は多くの災害に見舞われ、人々や経済は大きな打撃を受けてきました。これは多くのプレート境界が接し、太平洋とインド洋が交差する地域であるという自然条件によるもので、地震、火山噴火、津波、干ばつ、サイクロン、洪水や地すべり、高地においては霜などの自然災害を受けやすいのです。さらに自然災害に加え、開発や人口移動によって原油の流出、公害、不法土地使用、環境破壊のような人災も起こっています。近代化社会へと移行する過程において、災害も多様化し、増加してきているのです。

PNG で歴史的に最も大きな被害を与えた災害は、1998 年 7 月 17 日に起きたアイタペ津波でした。2,200 人が亡くなり、300 人が病院に収容され、11,000 人が家を失いました。1998 年の津波やラバウルのツイン火山の噴火、97 年から 98 年に起こった干ばつから、住民は自らがこうした自然災害にさらされていることに対する準備が不十分であったことを学びました。資源の少ない若い開発途上国として、PNG は効果的な災害対策に積極的に取り組むつつあります。

自然災害を止めることは誰にもできませんが、国家としては少なくとも、災害を受けやすい住民に十分な知識を持ってもらい、危険についての認識を高め、災害発生時に備えて十分な予防対策を取ることができるようにしなければなりません。政府と国家災害対策局は、これまでの教訓を考慮し、災害の軽減を目的とする「21 世紀教育と啓発プログラム」を全国、特に災害を受けやすい地域を中心に開始しました。

私は、PNG の災害管理に責任を持つ国家災害対策局の危機管理課で教育訓練事務官として勤務しています。アジア防災センターに来るにあたり、私は客員研究員プログラムを十分に理解していませんでしたが、オリエンテーションを通じて、このプログラムはトレーニングばかりでなく、23 のメンバー国の研究者が経験や知識を共有し、ADRC や日本の災害に関する専門家や研究者と協力体制を築くことのできる環境を提供してくれるものだと分かりました。

また、経験や知識の共有ばかりでなく、このプログラムには火山噴火、地震、地すべりなどの災害に見舞われやすい地域や、日本政府やその他の災害対策関連の組織を訪問する機会もあります。プログラム修了時まで、多くの経験とともに災害対策分野での知識や技能を高めることもできると思います。様々なことを学び、アイデアを共有し、ADRC の活動に貢献できるよう頑張っていきます。

< Philomena Miria, Training Officer, National Disaster Management Office, Dept. of Provincial & Local Government Affairs, PNG >